＜参考＞ 北海道教育委員会の取組

1 これまでの性教育に関する研修事業

（1）事業の概要

北海道教育委員会では、学校における性教育・薬物乱用防止教育の指導方法等に関する専門的指導の向上を図るため、平成14年度から4年間の計画で教職員を対象とした「性教育・薬物乱用防止教育研修会」及び生徒や保護者を対象とした「心と体の健康セミナー」を実施した。

性に関する様々な問題行動を予防するためには、知識を身に付けさせるとともに、生徒自らが適切な行動を選択できるような実践力を育てることが大切である。その際、自分自身の存在に価値や自信をもったり、他者とのコミュニケーション能力などを身に付けることが効果的であることから、本事業では、性教育と薬物乱用防止教育の共通課題である生徒の意志決定や行動選択のための資質や能力の育成を目指し、一次予防の観点に立った教職員の研修や生徒対象のセミナーを開催した。

その際、教職員の実践的な指導力の向上と指導方法の普及を図るため、研修会を受講した教職員がその効果について実感できるように、セミナーの補助講師を勤めるなど、研修会とセミナーとの関連をもたせた。

4年間の参加状況については、次の表のとおりである。

＜4年間の研修会・セミナーの参加状況＞

<table>
<thead>
<tr>
<th>開催管内</th>
<th>年度</th>
<th>平成14年度</th>
<th>平成15年度</th>
<th>平成16年度</th>
<th>平成17年度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>研修会</td>
<td>セミナー</td>
<td>研修会</td>
<td>セミナー</td>
<td>研修会</td>
</tr>
<tr>
<td>渡島・稚振・樺山・日高</td>
<td>45名</td>
<td>167名</td>
<td>50名</td>
<td>425名</td>
<td>44名</td>
</tr>
<tr>
<td>石狩・空知・後志</td>
<td>66名</td>
<td>361名</td>
<td>120名</td>
<td>221名</td>
<td>98名</td>
</tr>
<tr>
<td>上川・宗谷・留萌</td>
<td>48名</td>
<td>247名</td>
<td>44名</td>
<td>150名</td>
<td>34名</td>
</tr>
<tr>
<td>十勝・釧路・網走・根室</td>
<td>63名</td>
<td>228名</td>
<td>76名</td>
<td>172名</td>
<td>78名</td>
</tr>
<tr>
<td>参加合計</td>
<td>222名</td>
<td>1,003名</td>
<td>290名</td>
<td>968名</td>
<td>254名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（2）研修内容

ア 性教育・薬物乱用防止教育研修会

（7）構成

<table>
<thead>
<tr>
<th>受付</th>
<th>開会式</th>
<th>説明1</th>
<th>講義1</th>
<th>講義2</th>
<th>講義3</th>
<th>講義4</th>
<th>閉会式</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>健康教育の現状と課題</td>
<td>10代の性食</td>
<td>青少年の心理の特性</td>
<td>中高校生の薬物乱用の現状</td>
<td>『生きる力』を育むライフスキル教育</td>
<td>開会式</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
(4) 研修日程のねらいと内容及び講師

<table>
<thead>
<tr>
<th>研修項目</th>
<th>研修内容</th>
<th>講師等</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 健康教育の現状と課題  | ・一次予防を重視した健康教育  
                        | ・本道の健康教育の課題等       | 教育庁職員                   |
| 10代の性              | ・10代の性をめぐる社会状況  
                        | ・性感染症や人工妊娠中絶の心身への影響等 | 保健所職員 産婦人科医等       |
| 学校における性教育の現状と課題  | ・学校の教育目標と性教育の関連  
                        | ・計画的、組織的な性教育の在り方  
                        | ・家庭・地域社会との連携等       | 教育庁職員  
                        | 高校長教頭等               |
| 性教育に関する研究協議  | ・生徒の発達の特性を踏まえた指導の在り方  
                        | ・家庭・地域・関係機関との連携の在り方等 | 校長、教頭等                   |
| 青少年の心理の特性  | ・青少年の発達課題や心理の特性  
                        | ・心の健康問題への支援の方法等       | 臨床心理士精神科医等           |
| 中高生の薬物乱用の現状  | ・薬物に関する少年非行の概要  
                        | ・10代の薬物乱用の心身への影響等       | 北海道警察職員薬剤師等        |
| 薬物乱用防止教育に関する研究協議  | ・生徒の発達の特性を踏まえた指導の在り方  
                        | ・薬物乱用防止教室の効果的な進め方  
                        | ・関係機関の役割等               | 教育庁職員  
                        | 高校長教頭等               |
| 「生きる力」を育む健康教育  | ・相手のある保健行動の特性  
                        | ・ライフスキル教育の有効性  
                        | ・実践力を育成する指導方法等       | 大学教員教育庁職員等           |
| 「生きる力」を育むライフスキル教育  | ・ストレス等の対処方法  
                        | ・実際場面を想定したケーススタディ  
                        | ・ロールプレイングを用いた演習等       | 大学教員教育庁職員等           |

イ 心と体の健康セミナー

(7) 構成

<table>
<thead>
<tr>
<th>受付</th>
<th>開会式</th>
<th>シンポジウム</th>
<th>休憩</th>
<th>ライフスキル・トレーニング</th>
</tr>
</thead>
</table>

(4) 研修日程のねらいと内容及び講師

<table>
<thead>
<tr>
<th>研修項目及演講</th>
<th>研修内容</th>
<th>講師等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>シンポジウム及び演講</td>
<td>・10代の性をめぐる状況や薬物乱用防止に有効な対処方法等</td>
<td>医師、保護者等</td>
</tr>
<tr>
<td>ライフスキル・トレーニング</td>
<td>・薬物などに誘われた場合の対応（演習）</td>
<td>研修会に参加した養護教諭等</td>
</tr>
</tbody>
</table>
2 研修事業の評価

北海道教育委員会主催の「性教育・薬物乱用防止教育研修会」（全3日間）の中で、性感染症や望まない妊娠を予防するために必要な生徒の意思決定や行動選択を促すライフスキル教育の指導方法を習得させるため、教員研修プログラム（計4時間）を実施した。

平成15年度研修参加者に対しては、このプログラムを評価するために、プログラム実施の前後で質問紙調査を行った。回答者に対する倫理的配慮として、調査票は自記式無記名で、調査結果は本研修の評価以外の用途には一切使用しないことを事前に説明し、調査票への回答をもって本調査への協力を示すことの承諾を得られたものとした。調査票には、非記名ながらも同一人物の調査票であることを特定できるように、無作為に割り振った3桁の番号を付した。事前調査票への回答は、研修が始まる前の時間を利用してシール付きの封筒に密封した上で回収した。事後調査票への回答は、帰宅後に行い、シール付きの封筒（料金未納の宛名入り）に密封した上で翌日持参あるいはポストに直接投函してもらった。

本調査に協力が得られた者は156名であり、無効回答等がなかったことから、それらの者を解析対象とした（有効回答率80.4%）。主な属性としては、性別が男性51.9%、女子48.1%、校種が中小学校51.9%、高等学校44.2%、特殊教育諸学校3.8%、職名が教諭50.0%、養護教諭37.8%等、教職歴が21〜25年17.3%、11〜15年17.3%、6〜10年16.0%等、性教育の経験がある65.4%等であった。分析方法は、単純集計のほか、一部の項目の回答を示点化し、研修前後の平均値を比較した。平均値の比較には、対応のあるt検定を用いた。統計解析には、SPSS for Windows 11.0Jを使用した。主な結果等については、以下のとおりである。

(1) 本研修プログラムで用いた研修スタイル

本研修プログラムで用いた研修スタイル、すなわち、グループワークを多く取り入れた演習型の研修スタイルは、ほとんどの参加者が適切である（98.1%、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計）と回答している。実践的指導力の向上を目指した教員研修は、講義中心の方の類似の形式だけでなく、こうした演習型の研修スタイルの積極的な活用が望まれる。

(2) ライフスキル教育の指導方法にかかわる理解等

参加者において、研修参加後の方が研修参加前比において、「ライフスタイル教育の指導方法の理解、教材等の準備、指導方法を用いる自信、生徒に対する効果予測、実践への意欲について改善が認められた。本研修プログラムは、ライフスキル教育の指導方法に関する

図1 演習型研修スタイルの適切さ

図2 指導方法の理解
る教員の実践的指導力の向上に対して、一定の成果を上げていると考えられる。

「私は、無防備な性行動の防止について、この指導方法を用いるための教材や必要な物品を準備することができると思う。」

「私は、無防備な性行動の防止について、この指導方法を授業でうまく用いることができると思う。」

図3 指導方法にかかわる教材等の準備

図4 指導方法を用いる自信

図5 指導方法の生徒に対する効果予測

図6 指導方法の実践への意欲

(3) 本研修プログラムに対する意見

9割近くの参加者が今後の授業や校務分掌へ役立つ（88.5％、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計）、また、9割以上の参加者がこの研修を継続して続けてほしい（93.0％「とてもそう思う」と「そう思う」の合計）と回答しており、こうした研修はさらに普及・拡大することが望まれる。

「私は、この研修で学んだことがこれからの授業や校務分掌に役立つものだったと思う。」

「私は、この研修を継続して続けてほしいと思う。」

図7 授業や校務分掌への有用性

図8 研修の継続に対する意見
（4）研修プログラム全体に対する感想（自由記述、一部抜粋）
・ライフスキル教育はとても大切なので、何度も学習する必要があると思う。いくつの部分は他の講義会で受講したことがあったが、日々こちら側のスキルトレーニングを継続することが大切だと思います。
・今、最も知りたい分野なので、学ぶ機会を与えていただき感謝しています。
内容もわかりやすく、充実していましたので大満足です。是非、授業や校内研修に取り入れて多くの方に紹介したいと考えています。
・いずれについても、名称しか知らなかったので実際に行ってみるこの研修は非常に良い体験でした。今回のテーマに限らず自分の教材やLHR、職員研修等に利用できればと今後もという希望もあります。
・自分が実際にやった「ロールプレイング」が一番理解できました。「ケーススタディ」は準備が大変ですが、効果のある指導法だと思いました。「ブルインストーミング」は、扱う題材を選ぶのが難しい感じを感じました。
・ロールプレイングで、誘う役を生徒にやらせてはいけないと説明していたのが実際にやってみてよくわかりました。役割の中で誘う役が一番おもしろく子どもにやらせると善し悪しの区別がつかなくなるそうです。

（5）研修参加者のその後の取組
本研修プログラムの参加者は、校内研修を通じた他の教職員に対する普及活動や、性教育に関する教材として、一つの意志決定や行動選択がいかに多くなることと関連しているのかを学ぶための構造図や地域の生徒の実態に応じたケーススタディ等による実践報告が寄せられており、研修の成果が少しずつ定着しつつあることが伺える。また、学級指導等において、他のテーマへ指導方法を応用した実践報告も寄せられ、本研修プログラムの波及的効果も見られる。
性教育に関する教職員の実践的指導力は、一度の研修で大きく改善されることが難しい。校内外を問わず、こうした教員研修へ継続的に参加する等、教職員の絶え間ない努力が必要であると感じて研究活動を展開している。

（北海道教育大学 渡部 基）